

日本形成外科学会会誌投稿規程

1. 投稿の資格, 条件, 方法

(1) 投稿の資格

本誌への投稿者は原則として本学会正会員に限る。また、共同執筆者は8名以内とする。ただし、編集委員会が認めた場合はこの限りではない。

(2) 投稿の条件

1) 著者および共著者全員が論文内容について異議のないことに同意していること。それについて、著者全員の署名を得た誓約書を投稿時に提出すること。

2) 論文は他誌に未発表のものであり、かつ他の著作権を侵害しないものに限る。ただし例外として、次の要件を満たし、編集委員会が認めたものに関しては二次出版として認める。

①二次出版論文は、一次出版論文と異なる言語で書かれ、一次出版論文のデータ、解釈を忠実に反映したものであること。

②二次出版論文は主として一次出版論文と異なる読者層のために書かれていること。

③一次出版論文の編集責任者の許諾文書と既刊論文（別刷もしくはコピー）を日形会誌編集事務局に提出すること。

④二次出版論文の表題ページの脚注に、一次出版論文の掲載雑誌名、巻、ページ、発行年、表題、およびその論文の二次出版であることを明記すること。

⑤二次出版論文の投稿は、一次出版論文の掲載雑誌の発行後とする。

⑥論文の構成・形式は本誌投稿規程に従うこと。

なお、本規程は International Committee of Medical Journal Editors による Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals (<http://www.icmje.org/>) に準拠したものである。

[二次出版に関する投稿規定一本誌 27 (8), 2007. 「会告」参照]

3) すでに投稿（出版）された論文とほぼ同じ内容の論文を、先の論文を明確に引用することなく、投稿（出版）することは、多重投稿（多重出版）とみなされる。

ただし、①学会発表の抄録（Abstract）・会議録（Proceeding）・ポスター ②科学研究費などの報告書 ③極めて限られた読者を対象とした刊行物（病院ニュースレターなど）に掲載された論文は除外する。

したがって、論文の言語を問わず、新たに投稿する論文がすでに投稿（出版）された論文と一部でも内容が重複する場合には、投稿の際にその旨を編集委員会に申告し、かつ、すでに出版（掲載決定を含む）されている場合はその論文を引用する必要がある。その論文を多重投稿（出版）とみなすか否かは編集委員会で審議決定する。

[多重投稿（多重出版）について一本誌 35 (4), 2015. 「会告」参照]

4) 他文献からの引用（引用改変、転載）は著者の責任において一次出版著作権者の許諾を得、編集委員会に許諾

書を提出する。論文には出典を明示すること。

[著作権について一本誌 8:190~195, 1988. 「お知らせ」参照]

(3) 投稿の方法

2011年4月20日より、論文の投稿ならびに審査はウェブ上の専用サイトで行う。

[日本形成外科学会ホームページ>会員専用>日形会誌>投稿・査読>日本形成外科学会論文査読システム]

2. 倫理規程

(1) 論文は本学会倫理綱領に背くものであってはならない。

(2) 最新の『人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針』に留意すること。

(3) ヒトを対象とした研究で、下記の「倫理承認が必要な研究」に該当するものは、原則として、所属機関の倫理審査委員会（又はこれに準じるもの）の承認を得たものであることを「結語」のあとに明記すること。下記の「特定臨床研究」に該当すると所属機関の倫理審査委員会（又はこれに準じるもの）で判断されたものは、認定臨床研究審査委員会の承認が必要である。

(4) 動物を対象とした研究では、原則として所属機関の動物実験委員会（又はこれに準じるもの）の承認を得たものであることを「結語」のあとに明記すること。

(5) 編集過程で必要と判断された場合は、所属機関の倫理審査委員会もしくは動物実験委員会（又はこれらに準じるもの）の承認を求めることがある。

※倫理承認が必要な研究

・前向き臨床研究 [RCT, コホート研究, 症例集積研究（規模によらず）など]

・後ろ向き臨床研究 [中規模以上の症例集積研究（具体的な症例数等については、所属機関の倫理委員会又はこれに準じるものに問い合わせること）、横断研究など]

※倫理承認が必要でない研究

・ヒト由来試料を対象としない研究

・一般に入手できる（販売されている等）ヒト由来試料を対象とする研究

・一般に公開されているデータを元にした研究

・すでに出版されているデータを元にした研究（論文レビュー、メタアナリシスなど）

・小規模の症例集積研究*（具体的な症例数等については、所属機関の倫理審査委員会又はこれに準じるものに問い合わせること）

・症例報告*

*個人が特定されうる情報（顔面の写真など）を含む場合は患者からの同意書取得が必要である。

※特定臨床研究（『臨床研究法』より抜粋）

臨床研究のうち、次のいずれかに該当するものをいう。

・医薬品等製造販売業者又はその特殊関係者から研究資金等の提供を受けて実施する当該販売業者等の医薬品等の臨床研究

・医薬品医療機器等法における未承認の医薬品等又は適応

外の医薬品等の臨床研究

[日本形成外科学会における研究の倫理承認についてフローチャートも参照のこと (<http://www.jsprs.or.jp/member/journal/doc/rinri-kenkyu-flowchart.pdf>)]

3. 利益相反

(1) 利益相反の有無について、投稿区分を問わず論文の「結語」のあとに明記すること。

記載例 (無)：本論文について他者との利益相反はない。

記載例 (有)：本論文の研究資金 (使用した機材) は株式会社□□から提供を受けたものである。

(2) 利益相反のある場合は、臨床研究・基礎研究の利益相反の取扱いに関する指針、および同細則に従い「日本形成外科学会誌：自己申告による利益相反報告書」を日本形成外科学会事務局に郵送で提出すること。

[臨床研究・基礎研究の利益相反の取扱いに関する指針、細則一本誌 32 (5) 会告「社団法人日本形成外科学会臨床研究・基礎研究の利益相反に関する指針」]「同細則」参照]

4. 患者プライバシーの保護

(1) 個人が識別される症例の提示は、著者が患者のプライバシー保護の観点から十分な注意を払い、且つ責任を負うものとする。症例写真の十分な目隠しが困難な場合、および査読の段階で必要と判断されたものは、顔貌に限らず患者の掲載同意書を提出すること。

[外科関連学会協議会で採択された「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」を参照すること]

(2) インフォームドコンセントを得ておくべき研究ではその由を論文の「利益相反の有無」のあとに明記すること。

5. 論文の受付、査読、採否

(1) 論文の受付

論文原稿のほか、誓約書、カバーレターの提出は必須とする (カバーレターの書式、内容は定めない)。

投稿が完了した時点でメールで通知する。ただし、原稿の書き方や提出書類などに不備があるものについては、受付メール通知後であっても査読を経ずに再投稿を依頼する可能性がある。受理した原稿データは原則として返却しない。

(2) 査読

編集委員会で指定した査読者 (原則 2 名) により行う。

(3) 採否

査読結果に基づき、編集委員会により採否を決定する。

なお、採択された論文の著者校正は原則初校の 1 回のみとし、校正の際の加筆・修正は認めない。

6. 論文の種類

原稿の内容は形成外科学ならびにこれに関連のある領域とする。

(1) 投稿区分

以下の投稿区分に分類し、タイトルの前に明記すること。

1) 総説：ある研究課題についての歴史的展望と現在の動向を紹介する論文。

2) 原著：独創性に富み、目的と結論が明確な新知見のある研究論文。

3) 短報：独創的な研究、仮説を内容とする比較的短い論文で、対象数が少なく原著には不十分であるが興味深い小規模な研究。

4) 創意・工夫：独創的な手技、アイデア、材料・器具の使用などを内容とする比較的短い論文。

5) 症例報告：形成外科的に興味ある症例についての報告。

6) 特別講演：日本形成外科学会学術集会、日本形成外科学会基礎学術集会で発表された特別講演の内容。

7) 手紙※：日形会誌の既刊論文に対する意見・反論、編集委員長への意見申し立て、および著者による回答を内容とする短い通信文。

8) 投書※：形成外科領域に関連する内容、直接的な研究成果ではないが形成外科学の発展に貢献しうる内容を含んだ通信文。

9) 海外留学記※：留学体験報告に加え、身分 (給与の有無)、留学中の研究業績など、留学資料になる体裁にする。国際学会報告も受け付ける。

10) 二次出版※：「二次出版に関する投稿規定」に定められた条件を満たし、編集委員会が認めたもの。

※ 7) 手紙, 8) 投書, 9) 海外留学記は通常の査読は行わないため、投稿は E-mail で受け付ける。

※ 10) 二次出版を受け入れる場合、通常の査読は行わずに医学的用語が正しく翻訳されているかどうか確認する。掲載可否の判断は用語の問題以外は修正を行わない状態で、可か否かのみを編集委員会で判断する。また、二次出版は業績と認めず、日本形成外科学会誌優秀論文賞の対象外とする。

7. 原稿の構成

(1) 原稿用紙

下記のファイル形式で保存し、それぞれ 1 ファイルにまとめること。

●本文ファイル：doc, docx

●図表ファイル：doc, docx, xls, xlsx, ppt, pptx, jpeg

用紙は A4 判縦を用い、辺縁 1 inch 程度の余白を取り、横書き、ダブルスペースで作成する。左余白に行番号 (ページごとに振り直す)、右余白 (上下、あるいは下中央) にページ番号を挿入する。日本語は全角、英数字・単位は半角を用いる。

(2) 原稿の書き方

1) 論文は横書き、常用漢字、ひらがな、現代かなづかいを用い、「である調」の文体とする。

2) 総説、原著は原則として、タイトルページ、和文要旨・日本語キーワード、英文アブストラクト・英語キーワード、序文、方法、結果、考察、結語、利益相反の有無、(インフォームドコンセント、患者の掲載同意、謝辞) 文献の順に記載する。

①タイトルページには、論文タイトル、全著者名、所属機関 (以上日本語・英語併記)、投稿区分、ランニングタイトル (25 字以内)、連絡著者名と連絡先を記載

する。なお、筆頭著者以外に連絡著者を指定する場合は、必ずオンライン投稿査読サイトの登録情報を更新すること。

②和文要旨および英文アブストラクトは構造化を原則とし、序論、方法、結果、考察、結論の順にまとめる。和文要旨は400字までとする。英文アブストラクトは150～200語程度とし、英語を母国語とする者の校閲を受けること。キーワードは5つ以内とし、日本語と英語で対応させること。

- 3) 短報、創意・工夫、特別講演は、総説、原著の形に準ずる。
- 4) 症例報告は、総説、原著の形に準ずるが、和文要旨は不要とし英文アブストラクトは80語以上150語以内とする（構造化は不要とする）。また、方法、結果に替えて、あるいはそれに加えて症例の項目を入れる。
- 5) 数字はアラビア数字を用い、度量衡の単位は m, cm, mm, μ m, kg, g, mg, μ g, day, h, min, l, dl, ml などとする。
- 6) 図（グラフ）、写真の最低解像度は1つあたり300dpiとし、図表ファイルの容量は10MBまでを目安とする。図表は本文中の挿入順にそれぞれ番号を付ける。図（グラフ、写真）は図の下部に図番号、タイトル、説明文を記載し、表は表の上部に表番号とタイトルを記載する。病理組織学的写真にはスケールバーを付けることを推奨する。また、染色法を明記すること。
- 7) 外国人名、地名、薬品名および和訳しにくい用語以外は日本語を用いる。固有の医薬品や機器を記載する場合は、初出のみ“一般名（商品名：製造販売者名）”のように記載し、以降は一般名を用いる。なお、タイトル、要旨、キーワードには商品名は使用しない。略語は初出のみ“フルスペル（以下〇〇と略す）”のように記載する。用語は形成外科用語集に従う。年号は西暦とする。
- 8) 英文アブストラクトはダブルスペースで作成し、必ず英語を母国語とする者の校閲を受けること。英文校閲証明書の提出を必須とする。
- 9) 文献の順序は本文中の引用順とし、引用箇所には肩番号を付け照合する。著者が4名以下のときは全員、5名以上のときははじめの3名までを書き、あとは「ほか」または「et al.」を付け加える。欧文文献の著者名は姓、名（頭文字）の順とする。なお、本文中に著者の名を出して文献を引用する際には、1名：秦¹⁾、2名：野崎・平林²⁾、Nozaki & Hirabayashi³⁾、3名以上：秦ら⁴⁾とする。雑誌略名は引用した雑誌に記載されている略名を使用すること。不明な場合は、日本語論文は医学中央誌、欧文誌では Index Medicus に従うこと。

【雑誌】

著者名：題名、誌名、巻：ページ（始頁～終頁）、発行年（西暦）。

（例1）川那部岳志、脇田進一、波利井清紀、ほか：口唇血管腫・血管奇形の治療経験－硬化療法を中心として－。日形会誌、16：852～862, 1996。

（例2）Chin, M. & Toth, B.A. : Le Fort III advancement with gradual distraction using internal devices. *Plast. Reconstr. Surg.*, 100 : 819～830, 1996.

【単行本】

著者名：書名（一版）、ページ（始頁～終頁）、発行所、発行地（都市名）、発行年（西暦）。

（例）鬼塚卓弥：形成外科手術書（3版）、65、南江堂、東京、1996。

【分担執筆】

著者名：題名、書名（一版）、編者名（一編）、巻：ページ（始頁～終頁）、発行所、発行地（都市名）、発行年（西暦）。

（例）Brent, B. : Repair and grafting of cartilage and perichondrium. *Plastic Surgery* (1st Ed.), edited by McCarthy, G. G., 1 : 559～582, W. B. Saunders Co., Philadelphia, 1990.

【翻訳書】

単行本、分担執筆の形式に準じるが、原著者名に続けて（ ）に翻訳者名を記載する。

（例）Drake, R.L., Mitchell, A.W.M. & Vogl, W. (塩田浩平、瀬口春道、大谷 浩、杉本哲夫訳) : グレイ解剖学 (1版). 479, エルゼビアジャパン, 東京, 2007.

【ウェブサイト上の資料】

ウェブサイト上の資料は、再現性、責任の所在などが不明となる可能性があるため、オンラインジャーナルとウェブサイト上でしか閲覧できないものを除き、文献として用いないことが望ましい。また、ウィキペディア等の書き込み型ウェブページからの文献引用は認めない。

①オンラインジャーナル

著者名：題名、誌名、巻：ページ（始頁～終頁）または文献番号、発行年、URL、閲覧日（西暦）。

（例）小川 令、赤石論史、百東比古：エビデンスに基づいたケロイド・肥厚性瘢痕における治療指針。創傷、1 : 22～27, 2010, http://www.jstage.jst.go.jp/article/jsswc/1/1/1_20/_article/-char/ja/, 2012.4.1.

②資料

作成者：ウェブページタイトル、URL、閲覧日。

（例）World Medical Association（日本医師会訳）：ヘルシンキ宣言。 http://www.med.or.jp/wma/Helsinki08_j.html, 2010.10.20.

10) 論文中的数据について統計処理を行う場合は、解析方法、解析ソフトとバージョンについて明記すること。使用する解析方法が妥当であるか所属機関の統計担当者に相談することが望ましい。

8. 掲載費

(1) 無料ページ：刷り上がり5ページまでは無料とする。文字で1,600字弱、図表では8枚がそれぞれ刷り上がり1ページ程度に相当する。

(2) 超過ページ：6ページ目以降1ページにつき20,000円（超過ページ数×20,000円）。

(3) 特急掲載料：1ページにつき20,000円。

(4) 非正会員共著者掲載費：該当共著者1名につき10,000円。

- (5) 別冊製本代：実費著者負担とする。
- (6) 代理投稿手数料：1 投稿につき 3,000 円（訂正稿の投稿も含む）。
- (7) 各地区の形成外科学会学術集会抄録：（質疑応答は希望の場合のみ）1 ページにつき 10,000 円。原稿は doc, docx または txt 形式で保存し、次のいずれかの方法で提出する。①メール添付、②郵送（原稿を保存した電子媒体と出力した原稿を同封）。

9. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は一般社団法人日本形成外科学会に帰属する。無断での転載、二重投稿は認めない。

10. 連絡先

- (1) 利益相反報告書送付先・問い合わせ
 一般社団法人 日本形成外科学会
 〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12
 新宿ラムダックスビル
 Tel：03-5287-6773

- (2) 論文投稿・各地区の形成外科学会学術集会抄録に関する問い合わせ
 日本形成外科学会誌編集事務局
 〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12
 新宿ラムダックスビル（株）春恒社
 E-mail：jsprs-edit01@shunkosha.com

11. 投稿規程の変更

以上の投稿規程は、理事会の議を経て変更することがある。（平成 25 年 3 月制定、平成 26 年 10 月、平成 27 年 2 月、平成 28 年 2 月、平成 29 年 2 月、平成 31 年 2 月、令和 2 年 2 月、令和 2 年 10 月、令和 4 年 1 月、本規程の一部を変更した）

日形会誌編集委員会

編集委員長：櫻庭実	荒田順	飯田拓也	宇佐美泰徳	戎谷昭吾	大浦紀彦
編集委員：浅野裕子	覚道奈津子	桜山和也	桑原理充	小林眞司	佐々木剛
大守誠	菅浩隆	菅谷文人	鈴木健司	関征央	大安剛
佐藤伸弘	菅一幸	富田興一	鳥谷部一	永竿智久	成島三
手塚崇文	岡利彦	林田健志	原岡剛	樋口慎一	藤岡正
塗隆志	林利彦	林田健志	原岡剛	樋口慎一	藤岡正
堀圭二朗	松崎恭一	松峯元	宮内律子	宮本慎平	百澤
安永能周	楊井哲	八卷隆	山下理	山本直	
PRs 編集委員：岡崎睦	水野博司				